慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	小幡篤次郎略年譜
Sub Title	
Author	西澤, 直子(Nishizawa, Naoko)
Publisher	慶應義塾福澤研究センター
Publication year	2004
Jtitle	近代日本研究 No.21 (2004.) ,p.139- 141
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集・ 小幡篤次郎没後百年
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10005325-20040000-0139

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

小幡篤次郎略年譜

西沢直子

凡例

以下の資料を典拠とし、情報は統合して記述した。

五　『慶應義塾五十年史』慶應義塾　明治四十年

英　今田見信著作集Ⅱ『小幡英之助先生』医歯薬出版株式会社　昭和四十八年

歴　『慶應義塾歴代役職者一覧（増補版）』慶應義塾塾監局塾史資料室　昭和五十五年

篤　『小幡篤次郎先生小伝』財団法人小幡記念図書館大正十五年

福書　『福沢諭吉書簡集』慶應義塾編　岩波書店　平成十三年～十五年

書　本巻で紹介した小幡篤次郎書簡

天保一三（一八四二）年

六月八日　中津藩士小幡篤蔵の次男として中津殿町に生まれる（のち号を箕田と称す）［五・英・歴・篤］

幼少時

父より四書五経を習う［五・英・篤］

藩儒野本武三、野本三太郎の両氏、藩士古宇田姑山に就き漢書を学ぶ［五・英・篤］

野本白巌が宇佐郡白岩に隠棲し塾舎を開くに際して、これに従う［英・篤］

安政四年（一八五七）年

藩校進修館に入り、子弟の教育に従事する［五・英・歴・篤］

句読塾頭となる［五・歴］
万延元（一八六〇）年
進修館館務を命ぜらる［五・英・歴・篤］
文久元（一八六一）年
新当流剣術・立身新流抜合を相伝す［五・英・篤］
文久三（一八六三）年
進修館寄宿舎の事務を執る［英］
元治元（一八六四）年
進修館教頭となる［英］
六月　慶應義塾に入る［五・英・歴・篤］
慶応二（一八六六）年
慶應義塾塾長になる［歴　五・英・篤では塾頭］
幕府開成所助教授（英学）に任ぜられる［五・英・歴・篤］
明治元（一八六八）年
慶應義塾塾長を辞す［歴］
明治四（一八七一）年
中津市学校創設に尽力し、初代校長となる［英・篤］
明治五（一八七二）年
六月　中津より帰京す［英・篤］
明治九（一八七六）年
東京師範学校中学師範科（のち高等師範学校）創立に際し校務を執る［五・英・歴・篤］
明治一〇（一八七七）年
欧州を歴遊、米国を経て帰る［五・英・歴・篤］
明治一二（一八七九）年
東京学士会院会員に選ばれる［五・英・歴・篤］
八月　同窓組織設立を発意し準備を開始する［福書］
一〇月二六日　中津へ赴き、市学校の視察や同窓組織作りなどを行う［福書］
明治一三（一八八〇）年
交詢社創立に尽力し、幹事を務める［五・英・歴・篤］
一〇月　義塾の運営について福沢らと相談する［福書］
一二月　東京学士会院の会員辞任を申し出る［『福沢諭吉全集』第一八巻（岩波書店　昭和四六年）九三二頁］
明治一四（一八八一）年
東京学士会院会員を辞す［五・英・篤］
明治一五（一八八二）年
時事新報創刊に尽力する［五・英・篤］
明治一六（一八八三）年
二月　中津に行き、天保義社および市学校の処分に尽力［福書］
三月　中津より帰京す［福書］
明治二二（一八八九）年
八月　病気の小泉に代わって義塾改革につき計画する［福

書］

一〇月　病気療養中の塾長小泉信吉の代理となる［歴］

明治二三（一八九〇）年

一月　大学部の入学試験を担当する［福書］

三月　大学部を創設するにあたり、塾長に推され慶應義塾塾長となる［五・英・歴・篤］

貴族院議員となる［五・英・歴・篤］

明治二六（一八九三）年

四月　中津へ帰郷す［書］

五月　母としの傘寿の祝いを行う［書］

明治二九（一八九六）年

三月二九日　第七回帝国議会召集の際精励を以って銀盃一組を賜る［五］

明治三〇（一八九七）年

八月　慶應義塾塾長を辞す［五］

明治三一（一八九八）年

四月　慶應義塾副社頭となる［英・歴］

明治三二（一八九九）年

二月一六日　次女映、鈴木恒三郎と婚儀を執り行う［書］

一〇月二四日　貨幣制度調査会委員として、貨幣法改正に尽力し、銀盃一組を賜る［五］

明治三四（一九〇一）年

一〇月　慶應義塾社頭となる［五・英・歴］

明治三五（一九〇二）年

妻初を伴い関西地方を旅行する［書］

明治三六（一九〇三）年

東京市長候補に選出される［島田誠一「東京市長候補」『福沢手帖』一二四（福沢諭吉協会　平成一七年）］

明治三七（一九〇四）年

六月　体調を崩し大分県別府で湯治する［書］

明治三八（一九〇五）年

二月　胃腸病にかかり、四月胃癌と判明する［五］

四月一六日　死去、広尾祥雲寺に葬られる（戒名　箕田庵寅直誠夫居士）［五・英・歴・篤］

五月二〇日　慶應義塾新講堂において小幡先生追悼会を催す［五］

補　記　黒木彬文・鱒沢彰夫編集解説『興亜会報告・亜細亜協会報告』（不二出版　平成五年）によれば、明治一三年三月に興亜会同盟員となり、翌年一二月退会している（第一巻六頁・一七九頁　第二巻二八〇頁）。